

—学校教育目標—

◎かしこく やさしく げんきよく (◎印 本年度重点目標)

1. 学校経営の基本理念

「これからの日本社会は予測不能、未知の時代に突入するといわれている。」とは昨年度の冒頭に書いた私の書き出しだった。今年度のスタートは、その「予測不能の未知の時代」は先のことではなかったことを思い知らされるものとなった。

それでも本校の教員集団は常に一丸となり、ユーモアを忘れることなく、臨時休業からの様々な対応を、冷静かつ完璧に行ってきた。その根底には常に「七小の子供のために何が出来るか」そして、「どのように力を結集させればよいか」を考えることが教職員全員に浸透しているという本校の「強み」があった。新しい構成員を迎えても、この強みを全員が共有し、健やかでしなやかな心と体をもって「今、目の前にいる子供に必要なこと」を学習面でも生活面でも実践し、「未来を自ら切り拓く子供たちを育てる学校」を基本理念とする。今年度はその柱に、言葉の力を付ける指導を据える。

2. チーム七小の基本姿勢（心意気）

(1) 授業力の向上を常にめざす。

校内研究以外に、今年度の自身の研究テーマを自己申告にて掲げ、研究していく。成果発表も行う。

(2) 信頼ある開かれた学校づくりに努める。

公平、公正であり、ぶれず、こびない指導により、児童との信頼関係を築く。学校は絶対に「理不尽な場」であってはならない。

自らをプロフェッショナル集団の一員であることに誇りをもちつつも謙虚に、情報・行動連携に努める。⇒「いつでも、毎日が授業参観」であることを、年度の始めから、変わらぬ姿勢として伝えていく。

なお、学校での児童の体調不良、けがなどについては、慎重に対応すること。子供の口ではなく、必ず養護教諭や担任が保護者に伝える。首から上の怪我(歯を含む)には特に配慮を。「忙しかった」「休暇を取った」(から連絡をしなかった)等は理由にならない。

(3) 子供の世界や感性を尊重する。

「子供は未熟な生き物」の部分が全てではない。自分の小学校時代、が悩み、考え、日々懸命に生きていたことを忘れない教師であってほしい。

(4) 今あるものを常に見直し、改善につなげる。

教育活動実施後の反省は、本年同様、速やかに次年度の計画に生かし、その時点で改善しておくことで、年度末の業務軽減につなげる。

a ミニ音楽会開始！ b My 詩発表会の今後の方向性検討 c わくわく発表会の今後の方向性検討

3. 学校経営方針とその具現化に向けた取り組み (左カッコ内の番号は東京都教育ビジョンにおける方向と主要施策)

(方 3 施 4)	<p>方針1【人権教育の充実】</p> <p>◎ 自己有用感を高める指導の工夫を心掛ける。 (自尊感情調査の実施・結果と対応策の共有)</p> <p>◎ 『学級内での温かな人間関係が子供たちの言語能力を担保する』・良好な人間関係は学力向上の鍵かついじめ・不登校防止のための鍵</p> <p>◎ 一人一人の児童の背景、特性の理解と全ての児童が「認められた」と実感できる場の設定⇒朝の出席確認は大切な場。その日一度も担任と話さないで帰る子供をつくらない。</p> <p>◎ 多様な性の問題、部落差別などに対する正しい知識をもつ。自分のクラスに潜在的にそのような子が存在すると考えて指導を工夫する。</p> <p>◎ テストや作品などの処理〔掲示含む〕・返却方法にも注意・教師がきちんと点検をしたことを明らかにする。誤字脱字や、未完成のままの掲示は厳禁。仕上がらない子の対応に気を付ける。</p>
--------------------	---

<p>(方7施13)</p>	<p>方針2【教職員の資質向上】⇒「言葉の力」を付けさせる指導を常に考える</p> <p>◎「思いを言葉で語れる子」・生活指導とも連携して、語彙を増やす指導を心掛ける。「かわいい」「やばい」「エモい」でしか感情を表せない子供にしない。教師は最大の教育環境。自らの言葉づかいを振り返り、模範となること。</p> <p>◎ 授業を支える授業規律の徹底指導「きほんのき」⇒授業の挨拶（低中高で定める）、朝の出席確認(原則氏名を呼ぶ)、子供たちの呼名（呼び捨てや不統一、あだ名は児童との信頼関係を損なう）、休み時間のうちの授業準備など、4月に身に付けさせる。「はい」「です」をおろそかにしない。</p> <p>◎ 子供に「わかった」「できた」の学ぶ喜びを与える授業の構築⇒まず、「めあて」「まとめ」（振り返り）の黒板を全員が、全ての教科で使うことを試みる。</p> <p>◎ 服務規律の遵守</p> <p>教職員の児童への対応の仕方、服務態度（接遇、出退勤時刻、書類の提出期限・起案決裁順序の順守、机上整理など）、服装（名札着用、TPOに合わせた清潔感のあるもの、儀式的行事）や言葉遣いにも細心の注意を払う。</p> <p>○ 週ごとの指導計画による授業管理⇒ねらい・配慮事項等の記入、振り返り（子供の変容を記す）</p> <p>○ 適正な事務処理（変更時の迅速な報告、届出業務の期限遵守）</p>
<p>6 (方8施1)</p>	<p>方針3【特別支援教育の充実】</p> <p>◎ 情緒固定学級開設に向けた準備・・・準備委員会の立ち上げ、環境整備、教員の理解促進</p> <p>◎ 校内委員会の機能強化による適切な支援の速やかな決定</p>
<p>8 (方5・6)</p>	<p>方針4【心と体の健康教育の充実】</p> <p>◎ 健康な生活習慣の指導と保護者への啓発</p> <p>◎ 体力テストのための事前指導、結果分析と、課題克服に向けた具体的取り組みの実施</p>
<p>8 (方8施1)</p>	<p>方針5【校務改善による職場環境の向上（働き方改革）】</p> <p>◎ 「慣例で行っていないか」「本当に必要なことか」を常に念頭に、小さなことでもまず「やってみる」</p> <p>◎ 生み出した時間の有効利用を。「自分に栄養を」</p>
<p>(方10施2・2)</p>	<p>方針6【保護者・地域との連携】</p> <p>◎ 地域の人材資源の活用「見守り会」との連携強化・・・</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全児童、全教員が参加できるものに ・授業補助、ゲストティーチャーなどの対象に <p>◎ HP、メール配信の活用（メール配信は全員加入を目指す）</p>
<p>3 (方)</p>	<p>方針7【道徳教育の充実】</p> <p>◎「特別の教科 道徳」の指導法、評価の研究（OJTの実施）</p>
<p>(方6施11)</p>	<p>方針8【生活指導の見直しと徹底】</p> <p>◎ 年間目標の徹底指導⇒挨拶（2度目にあつた目上の人には黙礼）、敬語等、「決めたら必ず身に付けさせる」という強い意志を。</p> <p>◎ 校内外生活ルール徹底（右側歩行・専科教室への移動開始時刻、給食指導、下校時刻など）⇒すべての教職員がぶれないで同じ指導を、そのためのルール確認をしっかりと行う⇒起案文書の見直し</p>
<p>7 (方8施1)</p>	<p>方針9【外部機関との連携による問題の早期解決】</p> <p>◎子ども家庭支援センター、市教育センター（教育相談室）、児童相談所等との速やかな情報共有「使える手段はすべて使う」</p>
<p>7 (方4)</p>	<p>方針10【幼・保小中との効果的かつ能率的な連携】</p> <p>○ 情報交換・交流の見直し（対中学校・幼保）</p>